令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宇都宮市立清原北 小学校	宇都宮市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の概要

令和元年度まで実践的なコミュニケーション力の育成を目指して、会話科「英会話の時間」と「ことばの時間」を設定し実践してきた。令和2年度から外国語科の教科化を受け、会話科「ことばの時間」は継続、外国語活動、外国語科は、市の標準授業時数を上回る授業時数を確保し、常駐するAETとともに毎時間英語によるやり取りを中心とした授業を行い、コミュニケーション力を高める指導に取り組んでいる。

会話科「ことばの時間」では、児童が様々な人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて話したり伝えたりする能力を育成している。日本語による表現力の向上を目指し、アナウンサーやミュージカルなどの専門技術をもつ外部講師の方々による授業を設定し、夢育劇場や学習の発表会で表現力を工夫したり、毎日の校内放送や集会でのスピーチを行ったりして学習の成果を発揮することができた。

2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

項目	評価項目	主な具体的な取組	評 価
目指す児童の姿	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動(英語)の授業やAETとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 教職員は授業だけでなく、朝の会・給食の献立発表・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、児童が英語を使っている場面を見つけて教師が積極的に褒めるようにする。 廊下や階段に英語の掲示物を貼り、定期的に貼り替えることにより、英語での表現に触れる機会を多くする。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 82.1% 教職員肯定的回答 100.0%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 引き続き、朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 AETや担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、AETは他の教科の授業にも参加し、児童と積極的に会話をするようにする。 廊下や階段の蹴込板に英語の掲示物を貼ったり、職員室前の掲示コーナーに各学年の学習内容を掲示したりすることにより、英語での表現に触れ、それをもとにAETと話す機会を増やす。
	<p>B3 児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、授業形態を工夫して自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や学校行事で外部講師を招き、話すことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 81.1% 教職員の肯定的回答 100.0%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、授業形態を工夫して自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、全学年で行う夢育劇場や、ことばの授業における朗読発表、外部講師による話し方講座を通し、話すことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。

<学校関係者による評価>

- ・教職員の評価が市平均を上回る項目が多いことから、教職員が日頃から教育活動に熱心に取り組んでいることが見て取れる。教職員が様々な教育活動に達成感をもって働いていることを示しており、とても良い傾向である。
- ・保護者の評価が概ね良好であることから、本校の教育活動が理解されていることが想定される。
- ・児童の評価結果は、市平均を若干下回る項目が散見された。この点は、コロナ禍で制限されていた教育活動やイベントが再開されたことによる影響と想定される。これまで制限されていた状況の反動で児童としては、現状に対し「もっとやれる。」「もっとできる。」と感じていたことによるものと推測される。
- ・各行事や教育活動がコロナ禍前同様に戻りつつあり、とても喜ばしい。
- ・A1とB3の児童の肯定的回答率が80%台であるため、自分の意思を表現することが若干苦手な児童が多いのかと思われる。全校スピーチなどの機会を良い経験にしてほしい。また、AETの活動にも期待したい。
- ・「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、学校からの情報発信に地域としても目を向け、情報を共有していきたい。

3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者には、特別の教育課程に関する取組について学級懇談会等で説明したり、会話科通信「HEART to HEART」や学年だより、学校だより「夢育通信」、ホームページ等で活動の様子を紹介したりしてきた。地域住民やその他の関係者に対しても、学校だよりを配付、ホームページで情報発信してきた。昨年度は、新聞記事や地元テレビ局での放映による情報提供もできた。

また、保護者だけでなく地域住民へ回覧板で周知して参加者を募り、児童とともに授業に参加し会話科の学習に親しんでいただく「きよきたふれあい楽習」を実施し、保護者とともに「百人一首」を楽しむことができた。令和4年度までの3年間は、地域との連携行事「きよきた船頭まつり」が実施できなかったため、「ミニ学習発表会」を行い、「ことばの時間」で学んだ群読などを発表した。令和5年度は、保護者や地域の方々の協力を得ながら、「きよきた船頭まつり」を復活させることができた。土曜授業では「夢育劇場」と題して創作ミュージカル「鬼怒川のいのち」や創作劇「船頭物語」を保護者や地域の方々に鑑賞していただく機会を設け、教育活動への理解を深めることができた。

4. 実施の効果及び課題

朝の校内放送や給食の献立発表、健康観察でのやり取りなど、授業だけでなく毎日の生活の中で自然に英語を耳にし英語に触れる機会が増えることで英語に親しみを感している児童が多くなってきている。AETによる発音等の個別指導や各担任が日常の中で英語を使用することにより、低学年でも自然に英語が口ずさめるようになってきている。学校マネジメントの質問項目「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」の肯定的回答は児童の肯定的回答82.1%、教職員肯定的回答100%であった。また、学校マネジメントの質問項目「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」では、児童の肯定的回答81.1%、教職員の肯定的回答100%という結果となった。児童と教職員の肯定的回答には、やや開きがあるが、引き続き児童が英語に触れる機会や各教科においても他者と関わる機会を増やし、児童に「分かる」「できる」喜びを味わわせていきたい。また、児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を意図的に設定したり、各教科や学校行事において外部講師や専門家を招き、話すことや聞き方を重視した授業展開の工夫も、継続して行ったりしていきたい。

5. 課題の改善のための取組の方向性

外国語活動に苦手意識をもっている児童も見られることから、児童が自信をもって答えたり聞いたりできるように絵本やデジタル教科書、1人1台端末を活用した様々な活動を行う中で、多くの英語に慣れ親しませたい。また、英語での会話に抵抗を感じている児童には、ゲームや絵本を介した英語での

やり取りを聞いて楽しむ場を設定し、活動の楽しさを感じられるようにしていきたい。他教科と比較して、外国語科は、「自信がない」と不安に感じている児童が見られるので、担任とAETが適切に役割を分担し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができたという実感がもてるよう、個に応じた効果的な指導を今後も行っていく。

日本語によるコミュニケーション力の育成にあたっては、話し合い活動を充実させ、全ての児童に司会者等の役割を経験させたり、小集団で友達とのやり取りをしたりする機会を設定する。今後も、聞く力・話す力の育成を図り、話し手の意図を考えながら聞く力や、話の展開に沿って自分の考えを述べる力を身に付けさせていきたい。